国立がん研究センター中央病院で
婦人科悪性腫瘍の手術スペシャリストを目指そう！

婦人腫瘍科は女性性器悪性腫瘍の手術治療を担当しています。主には、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣／卵管／腹膜がんですが、希少がんである外陰がん、膣がん、子宮肉腫の症例も他施設に比較して多く担当しています。病理医、放射線診断医、腫瘍内科医、放射線治療医とカンファレンスを通じて連携し、集学的治療に取り組んでいます。

診療科としての人材育成のポイント

❶ 解剖学的な知識に基づいて、安全で根治性の高い手術が行えるようになる

❷ EBM に基づいた治療方針が決定できるようになる

❸ Clinical Question に対して研究にとりくむことができるようになる

大学や基幹病院で活躍できる Gynecologic Oncologist の育成が私達の責務です。

☞ 研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
婦人腫瘍科

教育担当：
宇野 雅哉

メールアドレス：
mauno@ncc.go.jp

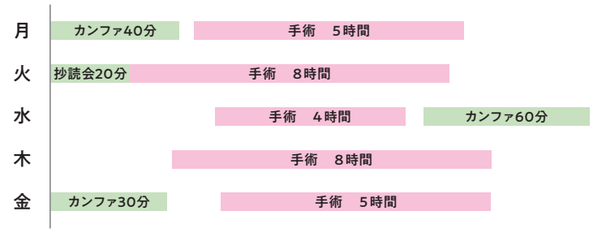
中央病院レジデントプログラム HP
https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html

Facebook 中央病院 教育・研修情報
https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/

手術実績（2019 年）　上皮内腫瘍を除く

子宮頸がん	24 例
子宮体がん	60 例
卵巣がん　卵管がん　腹膜がん	81 例
広汎子宮全摘出	24 例
腹腔鏡下手術	29 例

婦人腫瘍科研修の予定　週により変わります



外来業務の義務はなく、手術室がホームグラウンドです。手術担当以外の時間で、病棟診療、研究を行います。週に一回、連携他科との合同カンファレンス、月に一回、病理カンファレンスがあります。

研修内容　一例です。詳細は後述。研修内容は相談に応じます。

産婦人科専門医
（取得見込み）

→

レジデント３年コース

１年目	２年目	３年目
婦人腫瘍科 （※病院の規定に基づき CCM 研修あり）	大腸外科 泌尿器・後腹膜腫瘍科 病理科 緩和医療科 放射線診断科 乳腺・腫瘍内科（化学療法）	**婦人腫瘍科**

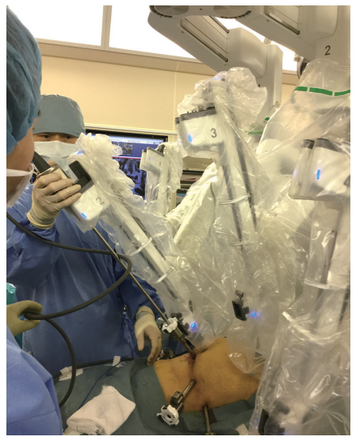
→

がん専門修練医コース
チーフレジデントとして
婦人腫瘍科で研修

→

婦人科腫瘍専門医

2020年4月現在のメンバー
科長　加藤友康　　医長　石川光也医員　他３名
レジデント　２年目１名　１年目２名



2020年3月
ロボット支援下手術導入

研究成果

研修中、国内外の学会で発表を行う機会が多数あります。ここにお示ししたのは、レジデント、チーフレジデントの先生が筆頭著者で 2018 年以降発表の英語論文の一部です。

1. Yoneoka Y, Ishikawa M, Uehara T, Shimizu H, Uno M, Murakami T, Kato T. Treatment strategies for patients with advanced ovarian cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy: interval debulking surgery or additional chemotherapy? J Gynecol Oncol. 2019 Sep;30(5):e81.
2. Kuno I, Yoshida H, Shimizu H, Uehara T, Uno M, Ishikawa M, Kato T. Incidental lymphangioleiomyomatosis in the lymph nodes of gynecologic surgical specimens. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2018 Dec;231:93-97.
3. Yoneoka Y, Yoshida H, Ishikawa M, Shimizu H, Uehara T, Murakami T, Kato T. Prognostic factors of synchronous endometrial and ovarian endometrioid carcinoma. J Gynecol Oncol. 2019 Jan;30(1):e7.
4. Takahashi K, Yunokawa M, Sasada S, Takehara Y, Miyasaka N, Kato T, Tamura K. A novel prediction score for predicting the baseline risk of recurrence of stage I-II endometrial carcinoma. J Gynecol Oncol. 2019 Jan;30(1):e8.
5. Tate K, Yoshida H, Ishikawa M, Uehara T, Ikeda S, Hiraoka N, Kato T. Prognostic factors for patients with early-stage uterine serous carcinoma without adjuvant therapy. J Gynecol Oncol. 2018 May;29(3):e34.
6. Tate K, Watanabe R, Yoshida H, Shimizu H, Uehara T, Ishikawa M, Ikeda S, Hiraoka N, Kato T. Uterine adenosarcoma in Japan: Clinicopathologic features, diagnosis and management. Asia Pac J Clin Oncol. 2018 Aug;14(4):318-325.

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは採用年に取得見込み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）で、当院での研修によりサブスペシャルティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医：産婦人科専門医
研修目的	婦人科腫瘍専門医の取得を視野に手術手技、骨盤解剖、婦人科病理を習得する
研修内容	１年目：原則として婦人腫瘍科、CCMで研修 ２年目：大腸外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科、病理科などで研修 乳腺・腫瘍内科で化学療法を研修することも可能 希望により専門施設で鏡視下手術の研修も可能 ３年目：原則として婦人腫瘍科で研修
研修期間	３年　※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	・化学療法は乳腺・腫瘍内科が担当しており、当科での研修中は外来業務がありませんので、手術および周術期管理中心の研修をします。 ・骨盤外科医を養成するため、大腸外科、泌尿器・後腹膜腫瘍科を研修します。 ・国立がん研究センター研究所と積極的に共同研究を行っています。

§ 副次的なコース

●がん専門修練医コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）、かつ、サブスペシャルティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者
研修目的	婦人科腫瘍専門医の取得を目指す
研修内容	・原則として婦人腫瘍科で手術を中心とした研修を行います。 ・希望により専門施設で鏡視下手術の修練を行えます
研修期間	2年間
研修の特色	・化学療法は乳腺・腫瘍内科が担当しており、当科での研修中は外来業務がありませんので、手術および周術期管理中心の研修をします。 ・チーフレジデントとして、手術予定の管理をスタッフと一緒に行います。 ・国際学会での発表や論文作成を行います。 ・国立がん研究センター研究所と積極的に共同研究を行っています。

§ その他のコース

●専攻医コース（連携施設型）

対象者	以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後３年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
研修目的	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
研修内容	国立がん研究センター中央病院に3か月単位、最長２年間在籍する。
研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：６か月～1年６か月。婦人腫瘍科研修
※６か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等　病院全体で定められた基準は12-13ページを参照